

カモ凶類識別のポイント

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

1999-2000年の冬は、カモメ類の当り年だったのではあるまいか。99年11月、千葉県谷津干潟にヒメクビワカモメが出現したが、この「世界の珍鳥」の飛来こそが、今思えば当り年の始まりであった。

三回通った千葉県銚子では、基本8種に加えてホイグリンカモメ、カナダカモメ、アイスランドカモメを観察。福岡県でもズグロカモメを観察するなど、ひと冬で13種類のカモメを見ることができた。しかも彩湖の探鳥会では、埼玉県内では珍しい「ただ」のカモメが出るというおまけまであった。

さて、今年も再びシーズンを迎えることとなるが、ここでカモメ類の識別について整理してみることにする。

◇カモメ類とは

チドリ目カモメ科に分類される鳥たちは、おおむねカモメの仲間 (gulls) とアジサシの仲間 (terns) とに区分され、それぞれを亜科とする考え方もある。

どちらのグループもほぼ世界中に分布するが、トロピカルなイメージのアジサシ類に対し、カモメ類は北方系という印象が強い。海という言葉からカモメを連想する人もあるが、真夏の海で見られるのは、せいぜいウミネコぐらいである。

カモメ類は大きさから大型、中型、小型に



カナダカモメ(手前)とセグロカモメ

グループ分けされる。大型カモメ類が第4回冬羽で成鳥羽に達するのに対し、中型カモメ類では第3回冬羽、小型カモメ類では第2回冬羽で成鳥羽となる。ちなみに、生まれた年の秋、幼鳥羽からの換羽後を第1回冬羽といい、翌春の換羽後を第1回夏羽という。

◇カモメ類基本8種

普通に見られるカモメ類として別表の8種を挙げることができる。日本一のカモメの名所・銚子港ともなれば、一日にして基本8種全部をマスターすることも不可能ではない。

初心者は、図鑑どおりの典型的な成鳥だけをまずよく見ることである。初めのうちは幼鳥は見ない。よくわからない若鳥もパス。

基本8種がわかってくれば、何だか様子が違う個体にも気付くことができる。もしかしたら珍しいカモメ（私はこれらを勝手にチョーチン(=超珍)カモメと呼んでいるが…)に出会えるかもしれない。例えば、

●足の黄色いセグロカモメがいたら……

キアシセグロカモメかホイグリンカモメの可能性あり。

●くちばしの黒いユリカモメがいたら……

ズグロカモメかボナバルトカモメの可能性あり。ズグロは、谷津干潟や船橋海浜公園でも見ることができる。初列風切の独特のストライプが特徴である。また、頭の黒くなり始める時季がユリカモメより早い。



アイスランドカモメ(第3回冬羽)

別表 カモメ類基本8種成鳥冬羽の識別ポイント

種名	背の色	初列風切の先端	くちばしの色	足の色	その他	
大型	シロカモメ	淡灰	白	黄色 (下側先端近くに赤斑)	淡紅	
	ワシカモメ	青灰	青灰	同上	淡紅	
	オオセグロカモメ	濃灰	黒	同上	淡紅	
	セグロカモメ	青灰	黒	同上	淡紅	
中型	ウミネコ	濃灰	黒	黄色 (上下先端に赤黒斑)	黄色	尾に黒帯
	カモメ	青灰	黒	黄色 (無斑)	黄色	
小型	ユリカモメ	淡灰	黒	赤 (無斑)	赤	頭に黒斑
	ミツユビカモメ	青灰	黒 (三角形)	黄色 (無斑)	黒	頭に黒斑

ボナバルトは、ナポレオンとは関係ない。ハシグロユリカモメという別名を知っていれば、どんな鳥か見当はつくはず。

●足の赤いミツユビカモメがいたら……

アカアシミツユビカモメの可能性あり。以前、銚子港探鳥会で足の赤いミツユビカモメが出たことがある。アカアシ！、と大喜びしたのであるが、飛び去る背面にくっきりとM字のパターン。明らかに普通のミツユビの若鳥だった。足に赤味のあるミツユビもいるので要注意。

◇カナダカモメ

真冬の銚子港。防波堤上にズラ〜と並んだカモメ、カモメ…。たじろぐほどの数を前にまず深呼吸。心を落ち着かせてからスコープに目をやると、不思議とカモメの違いがはっきり見えてくる。運がよければ、周囲のセグロに比べて背の色が淡く、やや小さめのカモメを視野に捕えることができるだろう。くちばしは比較的細く、頭全体のぼんやりした褐色斑も違う。足も短い。よく見ると初列風切の白黒のパターンも変わっているし、黒といっても灰色がかっている。風切の下側が確認できれば、それがカナダカモメである。

◇ゆるる大型カモメ類

近頃は、足の黄色いセグロカモメをキアシセグロカモメやホイグリンカモメと称するが、これらはどんなカモメなのであろうか。10年前だったら、足が黄色だったらニシセグロカモメで済んでしまっていたかもしれない。

『A Field Guide to the Waterbirds of Asia』(日本野鳥の会刊)には、セグロカモメ(*Herring Gull Larus argentatus*)の亜種として*L. a. mongolicus*と*L. a. heuglini*が掲載されている。この前者がキアシセグロであり、後者がホイグリンなのである。つまり亜種から昇格して、最近では別種とされるようになったというわけなのだが、分類としてはまだゆれているものと思われる。大型カモメ類の分類については今後の動向を注目してゆく必要があるだろう。最近のカモメ類の識別に関しては『Birder』99年11月号を参照されたい。

なお同誌は、ホイグリンの識別点として換羽の完了が遅い点を挙げている。このことは、言い換えると、初列風切の伸び切るのが遅いため、たたんだ翼端の白黒模様もイレギュラーな状態を見せているということである。初列風切のパターンが変で、足が黄色いセグロがいたら、ホイグリンカモメと考えてよさそうである。私が見た個体もそうであった。

そのほか、大型カモメ類の識別では頭の形や大きさ、くちばし下側の赤斑の形や色、虹彩の色のチェックも重要である。

◇おわりに

カモメの大家・氏原巨雄、道昭父子による『カモメ識別ハンドブック』が近々刊行されるとか…。私にとって、この秋いちばんの楽しみな出版になりそうである。

それではまた、探鳥会でお会いしましょう。

(写真：島田恵司)